

# 令和7年度第2回石巻地域普及活動検討会

日時：令和8年2月13日(金)  
午後1時30分から午後4時まで  
場所：宮城県石巻合同庁舎401会議室

## 次 第

### 1 開 会

### 2 挨 拶

### 3 内 容

#### (1) 令和7年度プロジェクト課題活動実績

課題 No. 1 小ねぎ産地における次世代の人材育成

課題 No. 2 水田におけるばれいしょ及びさつまいもの安定生産

課題 No. 3 トマト黄化葉巻病の媒介昆虫タバココナジラミに対する防除体系の構築

課題 No. 4 省力化技術の活用による優良大豆種子の生産性向上

#### (2) 令和7年度重点活動実績

#### (3) 令和8年度普及指導方針

#### (4) 令和8年度プロジェクト課題計画（案）

課題 No. 1 トマト黄化葉巻病の媒介昆虫タバココナジラミに対する防除体系の構築

課題 No. 2 深谷東地区における担い手法人設立による営農体制の確立

課題 No. 3 水稻乾田直播栽培導入生産者の早期技術習得による収量向上

#### (5) 令和8年度重点活動計画（案）

#### (6) 総合質疑

### 4 閉 会

課題名	計画期間	対象(地域等)	概要
<b>1 小ねぎ産地における次世代の人材育成</b>  (継続課題) 「園芸振興」関連課題   温度抑制資材を展開したハウス (R06.09.6)   農福連携 (小ねぎハウス除草作業) (R06.09.26)	令和5年度 ～ 令和7年度	J A いしのまき スリムねぎ部会青年部 11人	<b>【背景】</b> ○J A いしのまきスリムねぎ部会は 28 人で生産活動に取り組んでいるが、高齢化の進行や販売単価の低迷等により、生産意欲の低下がみられている。 ○部会には青年部 (11 人) が組織されており、青年部員が部会の主要な役割 (部会長等) を担っており、部会の活動方針等については青年部員の関与が大きくなっている。 ○青年部員は、各々が課題を抱えているが、販路の拡大や共同選別の取組など部会の方向性について前向きに考えている者もみられる。 ○スリムねぎ産地として維持・発展を図っていくためには、青年部員の生産意欲を高め、部会を活性化することが必要となっている。 <b>【これまでの活動・成果・今後の改善等】</b> ○現地巡回等により重点指導対象者 (2 人) の課題 (経費節減や労働力不足など) を明らかとし、課題解決に向けて情報提供を行いながら取り組みを進めた。 ○令和 4 年度の夏季高温による出荷量低下に対し、国の補助事業を活用し、青年部員 (4 人) が高温対策に取り組み、温度抑制効果を確認した。 ○部会全体に対し、高齢化等による出荷量低下について課題提起を行い、将来や課題解決に向けた議論の場を設ける。 <b>【活動事項】</b> ○青年部員の個別課題分析・解決支援 ○青年部による産地活性化に向けた取り組み検討支援 <b>【数値目標等】</b> ○出荷量が令和 4 年実績より上回る青年部員数 (人) 令和 5 年度実績値 2 人→令和 6 年実績値 3 人
<b>2 水田におけるばれいしょ及びさつまいもの安定生産</b>  (継続課題) 「園芸振興」関連課題   ばれいしょ現地検討会 (R06.06.19)   さつまいも出荷検討会 (R06.10.26)	令和6年度 ～ 令和7年度	(株)めぐいーと (東松島市:ばれいしょ) (農)おおしお北部 (東松島市:ばれいしょ) (農)エコルファーム (石巻市:さつまいも)	<b>【背景】</b> ○石巻地域では、平成 25 年からばれいしょ、令和元年からさつまいも栽培の作付面積が年々拡大し、令和 5 年度でばれいしょ 39ha、さつまいも 6.6ha となっている。 ○しかし、水田を利用して大面積 (概ね 10ha 以上) ばれいしょ生産では、連作回避や地域の農地利用調整上、毎年ほ場が変わり、作業量が多く、排水対策や病虫害防除が不十分となる場合がある。 ○「水田における大規模露地野菜」の課題である排水対策や病虫害防除、必要農機の適時利用や他作物との作業重複の回避、収益性の向上に取り組む。 <b>【これまでの活動・成果・今後の改善等】</b> ○ばれいしょに取り組んでいる法人では、作付前に補助暗渠や額縁渠施工等を実施するなど排水対策に取り組んだが、ほ場ごとの排水性により収量差が見られた。 ○さつまいもは、排水性の良いほ場を選定して作付けを行い、生育も順調に進み、昨年よりも収量も多くなった。 ○ポテト通信を作成し、ばれいしょ及びさつまいもの生育状況や栽培技術等について情報提供を行った。 <b>【活動事項】</b> ・ばれいしょ技術対策支援活動 ・さつまいも技術対策支援活動 ・情報発信活動 <b>【数値目標等】</b> ・ばれいしょ平均収量 2.2 t/10a (令和 5 年実績) 収量 1.8 t/10a (令和 6 年実績) ・さつまいも平均収量 1.5 t/10a (令和 5 年実績) 収量 2.0 t/10a (令和 6 年実績)
<b>3 トマト黄化葉巻病の媒介昆虫タバコナジラミに対する防除体系の構築</b>  (新規課題) 「園芸振興」関連課題   トマト黄化葉巻病発病株 (R06.09.01)   タバコナジラミ (ルーラル電子図書館)	令和7年度 ～ 令和8年度	管内生産者 5 人 〔JA いしのまきで共販〕 〔している生産者〕	<b>【背景】</b> ○震災後、施設トマト栽培に取り組む生産者が増加し、JA いしのまきのトマト出荷量は県内一位となっている。 ○JA いしのまきで共販する部会は、石巻トマト生産組合、河南トマト部会、やもとトマト生産組合、いしのまき農協ミディトマト組合、JA いしのまきミニトマト協議会で構成されている。 ○令和 5 年度に、管内においてトマト黄化葉巻病の発生が確認され、発生後は拡大の様子が見られ、媒介昆虫タバコナジラミ (パイオタイプ Q) の発生が確認されている。 ○生産者の病虫害に対する認識や意識は、それぞれで異なり、防除対策の実践水準にばらつきがあり、地域として防除対策の取り組みが求められている。 ○黄化葉巻病およびタバコナジラミ対策として、JA と連携した対策講習会の開催や、病虫害情報の発信を行っているが、重点的な現地指導で継続して対処する必要がある。  <b>【活動事項】</b> ○病虫害発生状況の把握と対象者の意識醸成 ○効果的な防除手段の検討  <b>【数値目標】</b> ○生産者による石巻地域の防除体系の策定 R8 年度 1
<b>4 省力化技術の活用による優良大豆種子の生産性向上</b>  (新規課題) 「アグリテック」 関連課題   大豆高速畝立て播種機実演会 (R06.06.11)   大豆現地検討会 (R06.08.21)	令和6年度 ～ 令和7年度	(株)クリーンライス (石巻市) (有)高須賀農産 (石巻市) (農)アスターファーム (石巻市) (農)ドリーム真野 (石巻市) (農)たてファーム・和 (石巻市) 蛇田集団組合 (石巻市) (株)ばるファーム大曲 (東松島市)	<b>【背景】</b> ○宮城県は北海道に次ぐ全国 2 位の大豆生産地である。 ○石巻地域は県産大豆種子の約 20% を生産している。 ○種子大豆生産では、管内 6 法人、1 生産組織が取り組んでおり、令和 5 年度は計 28.9ha が作付けされている。 ○管内では、湿害、高温の影響や紫斑病等の病虫害、雑草などにより、収量、品質が低下する事例が見られる。 ○特に、種子大豆生産では、病害粒等を取り除く手選別作業に手間やコストがかかり、種子生産から撤退や縮小の意向を示す生産者が出ている。 ○以上の要因により対象の増収・高品質や作業性の向上による効率化への意向は高まっている。 <b>【これまでの活動・成果・今後の改善等】</b> ○管内では麦刈り後の播種遅れが課題となっており、収量に大きく影響する精度の高い播種について、RTK を活用した高速畝立播種機 (4 条) による播種機実演会を開催した。 ○栽培管理チェックシートの作成・配布したところ、各作業ポイントを再確認し、自組織の栽培に合わせた修正を考えている様子であった。 ○大豆種子生産での手選別については、関係機関と連携し軽労化のための試験的な機械選別を実施する予定である。 <b>【活動事項】</b> ○収量・品質向上のための栽培技術指導 ○アグリテック活用による省力化と機械選別による軽労化 (作業時間、人数等) の評価 <b>【数値目標等】</b> ○令和 5 年度収量を 10% 上回る組織 令和 6 年 (実績) 3/7